

平成26年度 第2回 「宇都宮市子ども・子育て会議」 議事録

1. 日 時 平成26年8月1日（金） 午後1時00分～午後2時00分
2. 場 所 宇都宮市役所 14階 14D会議室
3. 協 議 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定に伴うひとり親家庭の現状・ニーズ・課題について
(2)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定に向けた基本理念・基本目標・基本施策及び施策の方向性（案）
4. 出席者
【委 員】伊達悦子会長，岡地和男副会長，君島道夫委員，栗田幹晴委員，釦持幸子委員，福田清美委員，鈴木友之委員，佐々木佳子委員，今井政範委員，石川英子委員，國吉眞理子委員，今井恭男委員，加藤明男委員，福田哲夫委員，今野哲也委員，鎌倉三郎委員，倉益章委員，坂本保夫委員，中野謙作委員，保坂寿委員，立原新委員，芥川一男委員，大橋純子委員，谷越宏美委員，林昌宏委員

【事 務 局】〔子ども部〕高橋部長，中里次長
〔子ども未来課〕緒方課長，塚田所長，篠崎補佐，肝付総括主査，高橋主任
〔子ども家庭課〕大久保課長，館野補佐，大島室長，根岸係長
〔保育課〕大根田課長，久保総括主査
〔子ども発達センター〕谷田部所長，平石副所長
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴者数 2名

発言者	内 容
<p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>1 開会 会議の公開について決定</p> <p>2 議事 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定に伴うひとり親家庭の現状・ニーズ・課題について</p> <p>(事務局説明)</p> <p>質問・意見はあるか。</p> <p>市単独の手当とは、具体的には何か。</p> <p>母子家庭等を対象として昭和44年に創設して以降、児童福祉手当等の4つの手当などがある。</p> <p>(2)「宮っこ子育て・子育て応援プラン」の改定に向けた基本理念・基本目標・基本施策及び施策の方向性(案)</p> <p>(事務局説明)</p>
<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>質問・意見はあるか。</p> <p>基本施策4の(1)「企業等における働きやすい職場環境づくり促進の支援」について、企業側の意識は把握しているのか。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>市では、仕事と子育ての両立のために必要な企業側の仕組みとしての育児休暇制度等、子育てしやすい環境づくりを推進するために、企業に向けた冊子を配布するなどして啓発を行っている。また、子育てしやすい環境を整備している企業に対しては、「きらり大賞」という表彰制度を通じた取組を行っている。</p> <p>仕事と子育ての両立のためには、企業の取組の推進が不可欠であると考えるため、今後も企業への積極的な働きかけを継続してほしい。</p>

委員	<p>改定プランの基本理念の中で、合計特殊出生率を目標に掲げているが、子育てしやすい環境を整えた結果、出生率が向上するなら理解できるが、人口維持や経済活動等のために合計特殊出生率を目標に掲げているのか。結婚や出産については、個人の選択を尊重するべきであり、例えば母子家庭に対する支援については、離別や死別の場合には受けられる支援が未婚の場合には支援が受けられないものもあり、同じようにひとり親家庭で子育てをしている家庭の間で不公平が生じている。そのように、子育て家庭は多様な個人の選択によって子育てをしている状況もある中で、すべての子育て家庭への支援のための改定プランにおいて、合計特殊出生率を目標に掲げることの目的は何か。</p>
事務局	<p>今般、国においても、人口維持のために出産に係る数値目標を掲げることについての議論がなされているところであり、本市においても改定プランの数値目標のあり方を模索しているところである。最終的に現行プラン同様に合計特殊出生率を基本理念に掲げる場合は、基本目標ごとの数値目標や成果指標、各施策の進捗状況と合わせて評価する仕組みとなっていることなどを丁寧に説明していく必要があると考えている。</p> <p>またひとり親家庭への支援については、各施策等の運用の中で工夫して実施していくことを検討したい。</p>
委員	<p>基本施策6の(2)「妊娠に関する正しい知識の習得・理解の支援の推進」については、誰に対して周知を行っていくのか、企業や男性向けか。</p>
事務局	<p>これまでの取組では、望まない妊娠を避けるための正しい知識の習得といった意図が強かったが、改定プランでは「妊娠・出産の希望がかなう」社会の実現に向け、妊娠中も働いている女性が多くいることから、企業に対する啓発が必要だと考える。また、男性の積極的な育児参加を推進するためには、妊娠期からの関わりも重要であり、配偶者の体調の変化等の知識を習得することが必要だと考える。</p> <p>さらに、これまでの取組に加え、若い男女が結婚や妊娠などライフステージにおける選択をする際に必要な妊娠に関する正しい知識の習得の推進をしたいと検討している。</p>
会長	<p>10代の妊娠・出産・子育てには困難が多い実態もあるため、若い世代への正しい理解の普及が必要だと考える。</p>

委員	<p>子育て支援施策について、従来の取組だけではなく、発想を転換して、宇都宮市で子育てをしないと損をするというような、施策はないか。市民のニーズの分析などから、そのような発想での施策を検討できないのか。</p>
事務局	<p>これまでも様々な子育て施策に取り組んできたが、妊娠や出産・子育てに関しては個人の選択を尊重してきたところである。今後は本市の子育て施策についての情報発信や、新たな視点による施策を検討し、委員ご指摘のようにもっと「宇都宮市で子育てをしたい」と思ってもらうために取り組む。</p>
委員	<p>子育て家庭への優遇策を講じてはどうか、経済的な大変さを抱えながらも一生懸命子育てをしている家庭に、宇都宮市で子育てをして良かったと思っていただくような取組を検討してほしい。</p>
事務局	<p>税金の優遇や住居の優先入居など、子育て家庭への優遇策を講じている自治体もあり、他市の取組の分析等を行いながら検討したい。</p>
会長	<p>宇都宮市の強みと弱みを活かした、子ども・子育て支援の検討が必要だと考える。子育てしている当事者からは、宇都宮市は子育てしやすいと聞くことが多いが、当事者以外への魅力の発信が必要なのではないか。</p>
委員	<p>子育て支援に関する企業との連携について、現在、商工振興課でCSRの推進に取り組んでいるが、子育て支援を行っている企業へのインセンティブを与えてはどうか。 また、基本施策にある「地域ぐるみ」とは具体的にはどのように考えているのか、将来的な構想は。</p>
事務局	<p>子育て支援を行っている企業へのインセンティブについては、改定プランの庁内での検討作業において商工振興課とともに検討する。地域ぐるみの子育て支援については、取組に応じて、地域の方や地区市民センター等が連携して、地域の子どもたちを見守る仕組みができるように考えている。現行プランでは環境点検活動、巡回指導等、地域の方の協力を得て取り組んでいる。</p>

委員	地域では子育て支援のほか防犯活動や学校と連携した活動など様々な活動を行っているため、地域の役割等はより具体的に示してほしい。
委員	地域によっても差があるのが現状であることから、コミュニティの希薄化や孤独死の問題、虐待の問題など、生活に関連する様々な問題に対して、地域の力はないものと思って行政は取り組むべきであると考えます。
委員	結婚する年齢が上がれば、所得も増え経済力は安定するが、初産の年齢も上昇し、少子化の要因にもなる。一方で、若い年代の方が結婚したい場合は経済力に不安があり、結婚をあきらめてしまうのではないかと。若い年代の方が、結婚を望んだ場合の支援、例えば市営住宅への優先入居などは基本施策のどこに位置づけられるのか。
事務局	現行プランにおいては、基本施策9に位置づけ、子育て世帯を対象とした賃貸住宅の供給を行っている。結婚等についての支援については、今後検討する。
委員	少子化対策に向けた結婚の支援に関して、現在行われている「宮コン」等の民間の取組を市が補助するのはどうか。
事務局	結婚への支援に係る行政の取組と民間の取組は、役割分担を意識しながら行っており、宮コンは本市のまちづくりにおいても有名な取組となっているが、補助等の支援を行っていない。一方、行政としての取組には、全県組織として設置し、県が実施しているとちぎ未来クラブにおいて出会いの場を提供するイベントを開催したり、本市の青少年活動センターにおいて若い男女に参加してもらって講座を実施している。
委員	障がい児に対する基本施策3の(2)「子どもや家庭にとって身近な地域における支援の推進」について、できるだけ地域の保育所などで受け入れができるように検討してほしい。
委員	子どもの家等での障がい児の受入について、障がい児一人に対して指導員1名の加配も引き続き検討してほしい。

事務局	それぞれの意見を参考に，今後検討する。
会長	<p>3 その他</p> 質問・意見はあるか。 <p>(質問等なし)</p>
会長	<p>4 閉会</p> 以上で，第2回宇都宮市子ども・子育て会議を終了します。